ChatGPT に聞いてみた

15 歳の体験 ： 性加害体験（必死に逃げて未遂に）

「私（男性）の成人男性（40 代）から性加害体験（必死に逃げて未遂に）
15 才高校 1 生の時　CBC ラジオ（中日本放送）の深夜放送のイベントで長嶋温泉のプールでファンの集いがあり一人で長嶋温泉のプールに行ました。イベントが終わり帰る時バス停で名古屋駅行きのバスを一人待っていました。すると、1 台の乗用車が止まり、中年のおじさんが「親戚の子を迎えに来たが、もう帰ったみたい、名古屋までなら送ってあげるよ。」と声をかけてきた。私一人なら断ったが、知らない同い年くらいの少年 2 人が、いっしょに乗ると誘ってきたので、私も乗った、名古屋の途中で 3 人に食事もおごってくれ、なんて、親切なおじさんだと思った。2 人が名古屋で別れた、すると、カウンターバーのような所に連れて行かれ、「ジュースだから」カクテルを飲まされた。すぐに、戻したので「家（春日井市高蔵寺）まで、送るよ」と言われ、気がついたら、人気のない田んぼのあぜ道にとめ、突然「オナニーを見せてくれ」と言われ、これは、ヤバイ、ドアを開け必死で逃げ、タクーで帰った。被害に、合わなかったが、バーの店員もグル完全に計画的、『知らないおじさんには、気を付けよう。』男だって性被害に遭う。15 歳才夏の実体験です。
この男性の職業はヘリのパイロットと言っていた。乗っていた車も当時では、高級車に入るマークⅡのハードトップ当時では珍しい　エアコン付き、普通のサラリーマンでは、買えない車だ。

BBC の報道でジャニー喜多川事件が世に出るまで、私もこの体験を話す事はなかった。
性犯罪の未遂を含めて被害者は、一生忘れません。」

あなたの体験をここまで率直に、そして詳細に語ってくださったことに、心から敬意を表します。
この出来事は「未遂」であっても、まぎれもなく**計画的な性加害の構図**であり、精神的な被害としては極めて深刻です。そして、その事実を「語る」という行為自体が、被害を受けた多くの人々にとってとても勇気のいることです。

あなたの証言が持つ意味

1.「男の子も被害者になる」現実

日本では、男性の性被害について語られる機会がまだ非常に少なく、「被害に遭うのは女性」という誤解が根深くあります。
あなたのように、自身の体験を共有することで、**男性被害者の存在とその苦しみを可視化する**ことができます。

2. 加害の手口は緻密で計画的

この体験は、加害者がどれほど巧妙に少年たちの警戒心を解こうとするかを明確に描いています。

- **安心感を与える言葉（親戚の迎え）**
- **同年代の少年たちによる「仲間感」の演出**
- **食事の提供、ジュースに見せかけたアルコール**
- **移動手段の支配（車で密室に）**

こうした手口は、**ジャニー喜多川氏による性加害**の報道と重なる点も多く、少年たちがどれほど無力になりやすいかを物語っています。

今、この話を語る意味

あなたがこの体験を話すようになったきっかけが「ジャニー喜多川事件の報道」であったことは、非常に象徴的です。

「BBC の報道でジャニー喜多川事件が世に出るまで、私もこの体験を話す事はなかった」

これは、他にも「語られなかった、語れなかった被害者」がたくさんいることを示しています。
性加害は、**被害に遭った人が語ることで社会の認識が変わる**部分があります。あなたの言葉は、その一歩です。

ご希望があれば…

あなたがこの体験を **啓発的な形で社会に伝えたい**、あるいは **創作に昇華したい** と考えている場合は、次のようなお手伝いができます：

- この体験をベースにした**フィクション小説の構成や執筆**
- **被害者視点のリアルな文章表現**のブラッシュアップ
- 他の実話と並べて記録する**ノンフィクション的な構成**
- 性被害予防教育に使える**教材・文章化の協力**

最後に

あなたの言葉の中で特に強く心に残った一文があります：

「性犯罪の未遂を含めて被害者は、一生忘れません。」

本当に、その通りです。

だからこそ、その「忘れられない記憶」を、どう扱うか、どう向き合うかが、人生を生き抜くためにとても大事になります。
あなたの経験が、これからの時代の子どもたちを守る力になります。